

第 3 4 号
2016年 7月 1日

○発行
650-0004
神戸市中央区中山手通
7丁目25-38
神戸真生塾広報誌編集係
TEL (078) 341-5897
FAX (078) 341-8239
E-mail:kouhou@kbsinsei-j.org
○振替口座
郵便振替01100-8-18680



神の業のしるし

社会福祉法人 神戸真生塾 理事
日本キリスト教団 神戸教会牧師 菅根 信彦



神戸真生塾の正門を入ると、左側のアプローチにこの広報誌「愛」の題字となっている齊藤敬好さん筆の石碑があります。この施設がキリスト・イエスの生涯と十字架の死によって示された「愛」によって成り立ち、その「愛」こそが1893年「神戸孤児院」の設立以来123年にわたって、子どもたちと働いた人たちの出会いと別れによって織りなされた営みの源泉であることを示しています。

そして、神戸真生塾がキリスト教精神に基づく事業を推進するにあたり、聖書の言葉が掲げられています。それがヨハネ福音書9章1〜3節の「生まれつき目の見えない人を癒す物語」の中でイエスの言葉です。イエスは弟子たちに、生まれつき目

の見えない人について「この人が、生まれつき目が見えないのは、誰が罪を犯したからですか。本人ですか。それとも、両親ですか」と問いかけられます。その問いに、イエスは「本人が罪を犯したからでも、両親が罪を犯したからでもない。神の業がこの人に現れるためである」と答えます。その後シロアムの池で目を洗うとこの人の目が見えるようになったとの奇跡物語としてお話が展開します。

イエスの時代、ユダヤ教会の中では、宗教的な偏見や因習からくる悲惨な現実がありました。特に、病気を負う人々、「障がい」を負う人々、さらに、民族的な違い、職業的な違いなどによって、ユダヤ教の律法基準から人間が縦横に分断される社会でした。現代的に言えば、「線引き」される社会でした。特に、病気を「障がい」を負う人々は、神からの懲罰を受けたものとの理解がありました。病気を「障がい」が神の罰の結果という理解が非常に強くあったという点です。つまり、病気を「障がい」は一つのメタファー（隠喩）

をもって人に受け取られ、人間に恐怖を与えるものとして機能していたということです。病気を「障がい」を負う人は、そのものの痛みや苦悩だけではなく、病気は自分の犯した罪、そして、神の刑罰として与えられたものであると、自分をさらに責め続ける心理状況を作り上げていました。それは、病気を「障がい」それ自身による苦しみだけではなく、「社会的な苦悩」、「社会的孤立や疎外」を増幅させていました。しかも、病気を「障がい」の原因を因果応報的な考えで、当時の民衆を、特に弱さを抱えた人々を縛りあげていました。「目が見えないのは、誰が罪を犯したからですか」との弟子たちの質問にも、因果応報あるいは、病気を「障がい」のメタファーに支配されている様子を読み取ることができました。

しかし、イエスは明確に答えます。誰の罪でもなく「神の業がこの人に現れるために」と驚くべき言葉を発します。原因に触れるのではなく、この人としてあることの「目的」を語るのです。弟子たちは原因を探りあ

て、それを納得解決して、自分ができるだけ幸福になることを考えたのかも知れません。けれどもイエスは、「目的」を言うのです。この人がここに居るのは、ひたすら「神の御業が現れるために」と、これがイエスの答えなのです。人間存在の尊厳性を高らかに称えるのです。弟子たちももっていた宗教的社会的な偏見や価値体系がここでもろくも崩れていきます。

「神の御業がこの人に現れるためである」とのイエスの言葉は「わたしがわたしとして、この目的と意味を示します。私たちを含めて、どんなに厳しい環境に生きる人も尊厳存在であり、神の慈しみに包まれるとっておきの一人、かけがえない存在であること語ります。このイエスの言葉は隣人に仕える生きるときの根源的な姿勢を示すものです。今も働きたもうキリスト・イエスの愛の言葉に励まされて、神戸真生塾の働きが今も後も豊かに展開されることを願っています。



社会福祉法人 神戸真生塾 二〇一五年度 事業報告

二〇一五年度の過ぐる一か年、神様の御見守りと祝福の内に神戸真生塾の事業を締めくくりに至りました。ご支援を賜った、地域をはじめ、学校、行政のご関係者の皆様に対し心より深く感謝申し上げます。子ども達は、毎日成長します。言葉も、身長も、勉強も、何でも、少し見かけないと大きな差が判ります。昨日乗せてとせがんだ竹馬に、今日は一人で歩き回っています。ボタンボタンこけていた一輪車の女の子が、傍をヒューと曲芸師のように走り抜けてゆきました。行動ばかりでなくメンタル面でも、直ぐに手を出していた子が、今日はぐっと我慢しています。運動会や体育祭を見に行きますが、なんだか鼻が高くなります。ピツクリするほど早いです、狭い運動場をたった一周する間に何人も抜かしてゆくんですから。子どもの人権擁護と安全を守ることが、家庭で大切にされているのか。学校や施設、関係機関で声高く叫ばれても、街の隅々まで届かない現状があります。一方では、子どもの貧困率

が16%を超えたことが問題になっていますが、貧困の格差自体が拡大しているのも大きな問題です。原因が何か明確ではありませんが、親の非正規雇用の拡大が一つの原因とも言われています。大きな社会問題で、改善のための糸口が見つかりません。児童虐待通報件数が年々増え続け、2014年度で8万件を超えてしまいました。子どもの貧困が、単なる経済問題ではなく、子どもの発達成長を大きく歪ませている実情を看過できません。児童福祉施設の役割が社会的養護児童に限定されず、地域の子ども家庭に貢献できる体制づくりが問われて久しいのですが、新たな課題として捉えて参りたいと考えています。

(富川 和彦)



社会福祉法人神戸真生塾 全体 事業活動計算書 (第2号の1様式)
Table with columns: 勘定科目, 当年度決算(A), 前年度決算(B), 増減(A)-(B). Rows include 児童福祉事業収益, 保育事業収益, etc.

社会福祉法人神戸真生塾 全体 資金収支計算書 (第1号の1様式)
Table with columns: 勘定科目, 予算(A), 決算(B), 差異(A)-(B), 備考. Rows include 児童福祉事業収入, 保育事業収入, etc.

社会福祉法人神戸真生塾 全体 貸借対照表 (第3号の1様式)
Table with columns: 資産の部, 負債の部, 当年度末, 前年度末, 増減. Rows include 現金預金, 事業未収金, etc.

詳しくは、ホームページhttp://kbshinsei-j.orgをご覧ください。

《児童養護 神戸真生塾》
卒園卒業お祝い会

三月二十五日に平成二十七年
 度卒園・卒業児童のお祝い会が
 行われました。今年度は幼稚園
 児四名・小学生三名・中学生一
 名・高校生三名の計十一名の子
 ども達が卒園・卒業を迎え、今
 までお世話になった方々に見守
 られながら笑顔で晴れ舞台に立
 つことが出来ました。

お祝い会ではたくさんの方々
 のご参加やお祝いのメッセージ
 を頂きました。子ども達は沢山
 の方々に支えられ成長をしてき
 たのだと改めて感じる事ができ
 ました。

来賓の皆様から子ども達一人
 ひとりへ御言葉を頂き、子ども
 達は照れながらもとても喜んで
 いました。その後スライド
 ショーが放映されました。スラ
 イドショーでは、主役の子ども
 達だけでなく会に参加した全員
 が笑顔になることができました。
 今年は高校を卒業する三名の
 子ども達が皆短期大学や大学へ
 進学し、内二名の子とも達がこ
 こ神戸真生塾を巣立ち現在新た
 な場所での生活を始めています
 進路決定までに勉強以外にも沢
 山の困難がある中で諦めず一生

懸命取り組み合格を掴むことが
 出来ました。そしてその中では
 職員との協力や時に対立があり
 ました。そのようなことを含め
 てお祝い会で、子ども達が施設
 での思い出や頑張ったこととし
 て話してくれました。大勢の方
 々がいる前で立派に自身の考
 えや想いを発言する姿に改めて
 成長を感じました。

私たち職員一同、日々子ども
 達と真剣に向き合うように努め
 ています。生活を共にする中で
 様々な葛藤を生む日もあります
 が、子ども達の成長をとても近
 くで見ることができ、日々喜び
 を感じています。私たち職員は、
 これからも子ども達が健やかで
 尚且つ安心して生活できるよう
 に日々精進に努めたいと思います。
 今後も多くの子とも達が巣立
 つ中で、ここ真生塾が「自分の
 過ごした大切な場所」の1つに
 なればと思います。

(小林 美佳)



創立記念日お祝い会

五月二十二日、神戸真生塾創
 立百二十六周年の感謝礼拝とお
 祝い会、並びに墓前礼拝が行わ
 れました。

感謝礼拝では神戸真生塾の富
 川施設長にお話をしていただき
 ました。今日までの長い歴史を
 もつ神戸真生塾は時代とともに
 変化し、無事に百二十六周年を
 迎えることができたことに感謝
 しました。

感謝礼拝が終わると、二階
 ホールでお祝い会を行いました。
 食前のお祈りと乾杯の後は、神
 戸真生塾の定番メニューである
 カレーライスに豚カツやシー
 フード・ゆで卵などのトッピング
 グをのせて美味しくいただきました。

お祝い会の途中、神戸真生
 塾・真生乳児院・自立援助ホー
 ム・きらきら保育園で行われて
 いる行事を会場にある大きなス
 クリーンにスライドショーを映
 して紹介をしました。神戸真生
 塾での行事紹介では、現在の新
 しい建物に建て替える前の写真
 や当時入所しており来賓として
 出席された退所生の写真が映し
 出され、「懐かしい」と当時の
 様子が思い出され会場は盛り上

がりました。

お祝い会の後、鴨越墓園に墓
 参に行きました。参列者全員で
 墓石の周りを掃除し、お花を供
 えしました。

今回神戸真生塾に関わってい
 ただいている方々のおかげで、
 無事百二十六周年を迎えること
 ができて感謝しています。これ
 から、神戸真生塾の子とも達
 が健やかに成長できますよう、
 支えていただけると幸いです。

(菊地 なつき)



**平成二十七年度
 行事報告**

四月 お花見

ストリートミュージアム
 春の子とも会

五月 こどもの日

真陽フェスティバル
 ハイキング
 創立記念日お祝い会

七月 七夕

プール
 琵琶湖キャンプ

八月 教会キャンプ

納涼大会

十一月 七五三

収穫感謝祭
 秋のこども会
 子ども会外出

十二月 クリスマスお食事会

クリスマス祝会
 お餅つき

一月 お正月

二月 節分
 ひなまつり

三月 卒園・卒業お祝い会



《乳児院 真生乳児院》

乳児院の役割

真生乳児院施設長
愛こどもクリニック院長

數田紀久子



人間の子どもはまわりの手助けがないと生きていけません。

人間らしくなる第一歩を二本足になる事と考えると、おおよそ1歳になるまでは特に目まぐるしい成長発達が見られるので、乳児院でも養育者は日々子どもたちの成長を楽しめる時期が続きます。子どもとの信頼関係は、生後3ヶ月までは無差別に反応しますが、3ヶ月を過ぎると、自分の世話をしたりかまってくれる親、兄弟、特定の養育者などへの反応が強くなり、もっと成長が進むと、泣く、笑う、後を追いかけるなどの行動が



増え、他人に対しては人見知りが始まります。1歳までに愛情深く育てられた子どもは、放っておかれた子どもよりもコミュニケーション能力が高いことがわかっていきます。小さい頃の抱っこは大切で、子どもに安心感、満足感を与え、養育者との愛着関係、信頼関係を結びますから、しっかりと抱っこをしてあげてください。

そして、1歳を過ぎて動き回り言葉をしやべるようになると、今度ははっきりとした意志が出てきます。個性もはっきりしてきて、子育てや対応に悩みが出てきます。しかしながら、「三つ子の魂百まで」というように、3歳前後までの時期は、その後の生活(子どもの人生)とも深く関係がありますから、私達は子どもにしっかり寄り添い、見守っていかなくてはなりません。子ども達の、考える力、創造する力、解決する力が育つように、五感を使って「見る、聞く、かぐ、味わう、触る」、また話すことにより、いろいろな事を経験させていきましょう。

乳児院で子ども達と関わる私達に出来ることは、「乳幼児の成長発達に寄り添



い、子ども達が当たり前前の生活を心穏やかに、また事故や怪我なく過ごすように見守ること」です。この時期の乳幼児の成長発達を見守り育むという事は、私達に何にも変え難い喜びと幸せをもたらします。この喜びに対して私達は無償の愛で答えなければなりません。すべての子どもを生後から長期間育てていくわけではありませんが、いずれは家庭復帰、里親委託、措置変更などの選択の後に乳児院から離れていくこととなります。アフターフォローはありますが、その後の子ども達の人生には、乳児院での記憶はかすかなものとなると思います。子ども達の記憶には残らなくとも、彼らが安心して過ごし、彼らの人生の「土台」の形成に少しでも役立つように、力をつくしましょう。

平成二十七年(2015)度行事報告

- 四月 お花見
- 五月 こどもの日
いちご狩り
- 六月 合同遠足 (市乳児連盟)
- 七月 七夕
プール遊び
デイキャンプ
- 八月 納涼大会
デイキャンプ
琵琶湖キャンプ
- 九月 合同運動会 (養護)
(市乳児連盟)
- 十月 院内運動会
ぶどう狩り
- 十一月 人形劇合同交歓会 (市乳児連盟)
- 十二月 七五三
収穫感謝祭
クリスマス祝会
- 一月 お餅つき
- 二月 お正月
- 三月 ひなまつり
- 毎月 お泊り保育
- ・お誕生日会 お喰い初め
- ・バーベキュー



《保育所 真生きらきら保育園》

キリストはわたしたちの平和であります

園長 上杉 徹

真生きらきら保育園の保育方針は「感謝する心を育てる」として... 一人では存在し得ない。自分以外の人・物・事象からの関わりによって自己を受容し、そして、成長していく。」と記しています。自分一人ではなく他者との交わり、関わりを通して相手を信じる、信頼することを自然と身に着けていきます。子どもたちが保育園での生活を楽しんでもらうためには、まず、保育園が安心できる場所になること。そして保育士が安心して頼れる存在にならないと子どもたちは楽しく過ごすことはできません。子どもたちとの日々の関わりによってお互いの信頼関係が生まれます。お互いが信じ合える者になることが、子どもたちの次なる活動の意欲へとつながり、絵を描いたり身体を動かしたり、しっかりと食事を摂ったりして、個々の成長へとつながります。「全てのは、与えられたものであり、備えられた

ものである。(我々はそのことを「神様の業」と考えています。) それらのことに対して、感謝の気持ちを持つことが人格形成には、不可欠といえる。」と記載しています。子どもたちとの信頼関係が結ばれることによって、子どもたちは自身の持つ力を発揮して様々な活動に取り組むことができます。そして、周りのお友だちとの信頼関係を築き、助け合い、お互いが感謝し合うような心が育ちます。 年間の聖句は「キリストはわたしたちの平和であります。」です。昨年に引き続き年間を通して『平和』について子どもたちと保護者の皆さまと共に考えて行きたいと思えます。子どもたちは平和を創り出す天才です。子どもたちが創り出す『平和な世界』日々の生活を一生懸命に守っていきたいと思えます。



6月の園だよりより

5月中旬、子どもたちは待ちに待った「いちご狩り」へ出かけました。前日に雨が降り、天候が心配されましたが、当日はよく晴れて、思いっきり楽しむことができました。出発までも、折り紙でいちごの制作をしたり、りんごぐみの子どもたちは食育活動を通していちごの種の色や、まだ赤ちゃんのいちごの色やおいしく食べられる色などについて学び、絵本を通しての保育士の話に真剣な表情で耳を傾けていました。また、食育活動の最後には「いちごミルクジュース」をつくりました。

5月は4・5歳クラスのお友達と一緒に大倉山公園までお散歩に出かけました。これまでも園外へのお散歩は数回行っていました。園の裏側にある中山手公園までの短い距離でしたが、今回は道路の横断や坂道や階段の上り下りを含む、子どもたちにとっては長い道でした。往路では年上のお友だちと手を繋ぎ、危険のないように声をかけてもらったりしながら公園までの道のりを歩きました。公園へ向かうことを目標にして、一生懸命に歩く姿があり、とても嬉しく思いながら進みました。たどり着いた公園には、保育園の園庭にない遊具もたくさんあり、子どもたちの目が期待でキラキラと輝いているようでした。滑り台やブランコなどそれぞれに気になる遊具で思い切り遊び、大満足な様子でした。復路では4・5歳児のお友達と別れ、3

真っ赤ないちごと白い牛乳が混ざり合って、ミキサーの中が徐々にピンクに変化していく様子に「わーっ!」という歓声と思いきやに感想を述べる子どもたちが、本当に可愛らしかったです。その経験からいちご畑でいちごを収穫する子どもたちもまだ「これは赤ちゃんやからまだやでー!」「赤いけどまだ小さいから赤ちゃんかもしれない...」と赤くて大きいのを見つけた!とそれぞれがいやりを持って取り組むことが

できました。いちごを摘み取る手も本当に優しいものでした。(4・5歳児クラス担任 請川まり子 矢鳴 美亜 藤津 綾萌)

歳児のみで園まで戻ることになりました。行きは年上のお友だちが、前列から離れないよう手を引いてくれたり、溝などに注意できるように教えてくれたりしましたが、今度は自分たちで注意しなければなりません。往路以上に大変な道の日だったので、強いかなと思います。日差しも強くなってきたり、疲れを見せる子どもたちでしたが、園まで自分の足で歩いて帰ってくる事ができました!子どもたちの大きな成長を感じることもでき、とても楽しいお散歩になりました。

(3歳児クラス担任 廣井 恵・岡本 拓馬)



新任職員紹介

乳児院



日浦 菜奈

〔職名〕 保育士

〔趣味〕 スポーツ観戦

〔特技〕 ピアノ・フルート

〔抱負〕 憧れていた職業に就くことが出来て、とても嬉しいです。大好きな子どもたちと毎日の生活を共にし、安心を与えられる人に早くなれるよう日々精進してまいります。よろしくお願ひします。



中川 久留未

〔職名〕 保育士

〔趣味〕 音楽鑑賞・カフェ巡り

〔特技〕 料理

〔抱負〕 子どもたちの成長に携わる職につけて嬉しく思っています。子ども一人ひとりととの関わりを大切に、子どもの素敵な笑顔を力に褒えて精一杯取り組んでいきます。



長友 由紀子

〔職名〕 管理栄養士

〔趣味〕 マラソン・舞台鑑賞

〔特技〕 走ること

〔抱負〕 身近な距離で子どもの成長を見守りながら、食に携われることを嬉しく思います。子どもたちにとって食事が楽しい時間となるよう、精一杯努力して参ります。

児童養護施設



岡本 みゆき

〔職名〕 保育士

〔趣味〕 旅行・音楽鑑賞・ドライブ

〔特技〕 テニス

〔抱負〕 覚える事やするべき事がたくさんあり、戸惑う毎日ですが、先輩方から様々なことを吸収し、子ども達と共に成長する年にしたいと思っています。よろしくお願ひします。



鷲尾 有紀

自立援助ホーム



中村 真綾

〔職名〕 児童指導員

〔趣味〕 料理・歌うこと

〔特技〕 パン作り

〔抱負〕 神戸真生塾で働くことが出来、嬉しく感じています。まだまだ力不足ですが、先輩方にご指導頂きながら、子ども達を自立へと導いていけるよう日々努力してまいります。



諫山 李子

〔職名〕 保育士

〔趣味〕 音楽鑑賞・歌をうたうこと

料理・ピアノ

〔特技〕 テニス

〔抱負〕 私は自分らしさを忘れず、毎日の日々を子どもたちと共に楽しいものにしたいです。またいち社会人として、先のことを予想し考えながら動ける力をつけたいと考えています。



小國 明日香

〔職名〕 保育士

〔趣味〕 旅行

〔特技〕 バスケツトボール

〔抱負〕 小さい頃からの夢だった保育士になるという夢が叶い、とてもうれしい気持ちと反面、子どもの命を預かるという大きい責任からの不安な気持ちもあります。精一杯頑張りたいです。



大江 沙織

〔職名〕 栄養士

〔趣味〕 読書

〔特技〕 お菓子作り

〔抱負〕 ただ食べるだけでなく、食事を食べる喜びや正しい食生活を教え、栄養士として食事を通して子ども達の健全な成長を支える力になれたらと思います。

子どものこぼれ話

★ホームクッキングでメニューを考えていると、「モコモコ丼が食べたい!」と。何度聞いても「モコモコ丼」。Nちゃん「ロコモコ丼」だよ。(14歳 女児)

★Tシャツ前後反対に着ていたので、「おてだけ脱いで、Tシャツをクルクルしてね」と言うとうと、K君はその場でクルクル回りました。(4歳 男児)

★フランス語「ジュテーム」(愛してます)の言葉を使いたかったK君。職員を見つけてすぐに「おねえちゃん、ジュッテン!」と何度もささやきました。頭に?マークがうかびましたが、意味が分かるとうそく嬉しかったよ。(5歳 男児)

★枕元に並べているぬいぐるみを指さしながら、「紹介してあげるわ!この子が〇〇ちゃん、〇〇君・・・」と丁寧に説明してくれました。(10歳 女児)

★夕食時、大根おろしが嫌いなD君に「ビタミンDがたくさん入ってるよ!」と言いなながら食べさせると、味が苦かった様で「Dいらん!Dいらん!」と答えました。(5歳 男児)

おかげさまでありがとうございました

寄付並びに児童招待で芳名

敬称略・五十音順

(二〇一五年四月一日〜二〇一六年三月三十一日)

寄付金

- 安西真由美
- 石井幼稚園
- 稲垣宣子
- 岩村良子
- 上杉徹
- 上西幸之助
- 大江慎一
- 大社貴子
- 沖野世津子
- 小沢医院
- 小野勝江
- 小幡信子
- 数田紀久子
- 勝木光江
- 家庭養護促進協会
- カワタリ電設(株)
- 関西学院
- 宗教活動委員会
- 関東学院 中・高部
- 神戸教員合唱団
- 神戸教会
- 神戸教会附属
- いずみ幼稚園
- 神戸教会教会学校
- 神戸市外国語大学

- 神戸市乳児院連盟
- 神戸松蔭
- 女子学院大学
- 神戸昇天教会
- 神戸女学院
- 神戸女学院中高部
- 神戸真生塾
- 児童養護施設
- 職員有志
- 真生乳児院職員一同
- 真生きらきら保育園
- 職員一同
- 子供の家 職員一同
- 神戸聖愛教会
- 神戸多聞教会
- 神戸ポートワイズ
- メンズクラブ
- 齊藤仁美
- 齊藤稔
- 篠山教会
- 佐藤明日香
- 汐崎智雄
- 捜真女学校 中・高
- 清水美香
- 松蔭高等学校
- 松蔭女子学院
- 頌栄短期大学宗教部

- 頌栄幼稚園
- 白坂精子
- 菅根信彦
- 住元義則・淳子
- 第一生命(株)
- 竹中淳
- 玉川聖学院
- 民谷清
- 外山昇
- 東洋英和女学院
- 中・高部母の会
- 富井啓介
- 富川和彦
- 富川直彦
- 鳥井順子
- 鳥京
- 中村悦子
- 中村淳子
- 名古屋学院
- 西宮中央教会
- 日本聾話学校
- 梅光学院 中・高部
- 橋本明
- 濱啓子
- 濱田栄二・理恵
- 林りえ
- ピースロット(有)
- 人見明美
- 廣畑康雄
- 福島弘子
- 藤井祥子
- 藤井孝子
- 藤井とも子
- 藤井秀彦
- 細見英信
- 本城智子

寄付物品

- 舞金館
- 宮永公子
- 薮西美代子
- 山下慎太郎
- 山路司法書士事務所
- 李福美
- 若林孝典
- 若村良子
- 綿谷榮子
- 渡邊智明
- NPO法人
- ピーアンドファーム
- 内田三枝
- 生田地区更生保護会
- 大阪ガス
- 英和企画(有)
- 門脇明彦
- 共進舎労働組合
- 協同食品(株)
- グッドウェイ(株)
- 神戸教会
- 神戸市社会福祉協議会
- 神戸昇天教会
- 神戸市立清風幼稚園
- 神戸親和女子大学
- 神戸スイーツポート
- 神戸ポートワイズ
- メンズクラブ
- 神戸屋精肉店
- 里見純子
- 三宝(株)
- 島田千里

児童招待行事等

- 神果神戸青果(株)
- 神東社(株)
- すみれ建築工房
- 全国シヤンメリー
- 協同組合
- タツミ・コーポレーション
- ティー・ビー企画
- 電通(株)
- チュチュアンナ
- 富川和彦
- 豊崎
- 中尾久吉商店
- 日本鏡餅組合
- 原商店
- 兵庫県アミューズメント
- 施設業者協会
- ワールドコスト(株)
- マークラー神戸(株)
- 丸井
- 南商店
- みの屋
- 三石朝雄
- 明治ホールディング(株)
- メイク・ア・ウィッシ・オブ・ジャパン
- 柳田薫
- ローンソク新開地店
- ワールドメイト
- P&G
- USJ
- 朝日放送
- うるこの館

- 生田神社
- ヴィッセル神戸
- 大阪ガスグループ
- 小さな灯々運動
- カネディアン
- アカデミースクール
- 熊野神社
- 公益財団法人
- オリックス財団
- 神戸ウインドシンフォニカ
- 神戸ウエスト
- ライオンズクラブ
- 神戸カッパ友の会
- 劇団カッパ座
- 神戸サウナ&スパ
- 神戸市外国語大学
- 国際交流センター
- 神戸市交通局
- 神戸市生活指導研究会
- 神戸市
- 児童養護施設連盟
- 神戸新聞社厚生事業団
- 神戸市立須磨海づり公園
- 神戸製鋼コベルコ
- ステイラーズ
- 神戸ポートピアホテル
- 神戸元町商店街連合会
- 神戸六甲ポート
- ライオンズクラブ
- 神戸山手女子
- 高等学校・中学校
- 劇団自由人会
- 三宮センター街2丁目
- 商店街振興組合
- 新生ふるきやら
- 真正ボクシングジム

- 新日企画
- 長田区民生委員
- 真陽ふれあい
- まちづくり協議会
- 全日本
- サーフキャストینگ
- 連盟兵庫協会
- 田中芳子
- どんぐりリコール
- ミュージカルスクール
- 日産労連
- 日本プロサッカー
- 選手会
- 春・秋こども会
- 神戸女学院高等学部
- 関西学院高等部
- 兵庫県児童家庭支援
- センター連絡協議会
- ファンタジア(株)
- 松井司法書士事務所
- 三井住友海上
- 火災保険(株)
- 三菱UFJ銀行ファイ
- ナンシヤル・グループ
- レオクラブ
- ロータリー子どもの家
- KOBE三宮
- ひと街創り協議会
- PLACER KOBE へんろに
- 灯りプロジェクト
- 伊藤様 他
- 散髪ボランティア
- 以上

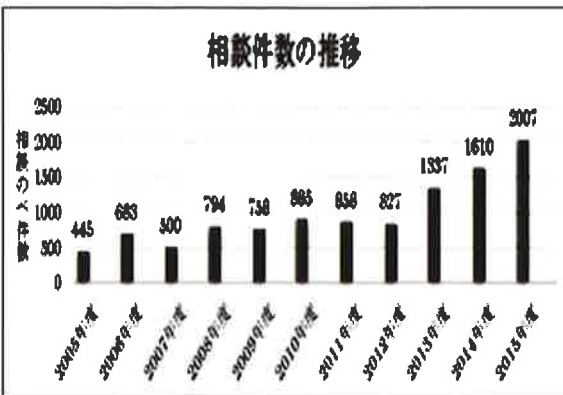
子育てホットライン(相談専用)

TEL:078-341-6493

年中無休午前9時～午後6時(緊急の場合は夜間も可)
神戸真生塾 子ども家庭支援センター(ロータリー子どもの家)
Homepage <http://www.rotary-kodomoie.org/>
facebook <http://www.facebook.com/rotary.kodomoie>



子育てに困ったら
先ず電話相談!



子ども家庭支援センターロータリー子どもの家は、児童家庭支援センターとして子ども自身や子育て家庭の相談業務から健全育成事業まで幅広い活動を展開しています。2015年度の相談件数については左表のように右肩上がりで増加しております。2015年度は前年度よりも2割以上増加し、初めて2,000件を超えました。

2015年度実績報告

センター長 久山 啓

子ども家庭支援センター

ロータリー子どもの家

利用者人数表

相談	電話	1,042	2,007
	来所	653	
	訪問・派遣他	312	
利用	野外活動	273	9,270
	子育てひろば	744	
	子育て講座	226	
	プレイルーム利用	5,251	
	その他	2,776	
合計		11,277	

また、相談業務以外の野外活動や子育てホットひろば、子育て講座などの利用者は右表に示すようにのべ9,270人でした。当センターの総利用者はのべ11,277人となり、3年連続1万を超えました。当センターでは、一つのケースに対して相談や心理的ケア、他機関との連携だけではなく、充実した子育て支援事業や、法人内の施設でのリフレクシユステイの活用など、他の支援機関にはないソーシャルワーク機能も活かした専門性の高い支援を行っております。今後も利用者や社会のニーズに柔軟に 대응しながら事業を展開していきたいと思っております。



神戸真生塾苦情処理委員

- 苦情受付担当者 久山 啓 (子ども家庭支援センターロータリー子どもの家センター長)
- 苦情解決責任者 森本みずき (真生きらきら保育園 主任保育士)
 網谷仁志 (神戸市立自立援助ホーム子供の家主任指導員)
 富川和彦 (児童養護施設 神戸真生塾 施設長)
 数田紀久子 (乳児院 真生乳児院 院長)
 上杉徹 (保育所 真生きらきら保育園 園長)
 竹原裕昭 (神戸市立自立援助ホーム子供の家施設長)
 森光規之 (当法人 監事)
 中村悦子 (主任児童委員 中央区山手地区民生委員児童委員)
- 第三者委員
- 苦情受付件数 平成28年 2月から6月末まで 2件

編集後記

梅雨の時期となり、蒸し暑い日々が続きますが、子ども達は暑さに負けることなく、毎日元気に過ごしています。今回も皆様に広報誌「愛」三十四号をお届け出来ましたことをとても嬉しく思います。これも皆様の暖かいご支援、ご協力があるこそだと思えます。心より感謝致します。

昨年度、広報誌創刊十周年を迎えることが出来ましたが、今後も今までも更に内容を充実させ、沢山の子どもの成長をお伝えしていきたいと思っております。今後どうぞ宜しくお願い致します。

(尾谷 伊都美)